



村岡 渡

（川崎市立井田病院 歯科口腔外科）

『咀嚼筋の障害の総論 ～顎関節症に対するボツリヌス治療を考えるその前に～』

<要旨>

顎関節症は鑑別診断を含めた正しい診断と治療選択が重要であり、除外診断のために知っておくべき疾患が数多く、治療法の選択也多岐にわたる。今回の講演会は、最近、歯科領域で用いられることが増えてきたボツリヌス毒素について、基本的知識や最新の文献情報、適応や治療法を理解するためのプログラムとなっている。そこでまずボツリヌス治療を考えるその前に、改めて顎関節症をはじめとするさまざまな咀嚼筋の障害について整理する必要があると考えた。

「顎関節症の病態分類 2013」における顎関節症の「咀嚼筋痛障害（Ⅰ型）」の主な病態は「局所筋痛」と「筋・筋膜痛」とであるとされている。一方で、「顎関節症と鑑別を要する疾患あるいは障害 2014」においては、「顎関節症以外の咀嚼筋の疾患あるいは障害」として、①筋萎縮、②筋肥大、③筋炎、④線維性筋拘縮、⑤腫瘍、⑥咀嚼筋腱・腱膜過形成症、が挙げられている。さらに、「咀嚼筋の疾患あるいは障害以外の疾患」として、①筋ジストロフィ、②ジストニア、③ジスキネジア、が挙げられている。

本講演では、これらのさまざまな咀嚼筋に生じる病態について解説を行い、咀嚼筋の障害を適切に診断し治療するための総論とし、この後に続くボツリヌス毒素に関する各講演を理解するための足掛かりとして頂ければ幸いである。

<講演内容>

- Ⅰ 顎関節症の病態と診断
- Ⅱ 顎関節症以外の咀嚼筋の障害との鑑別
- Ⅲ 咀嚼筋の障害の病態と診断

<専門医カリキュラム>

- ・顎関節症の診断および病態診断ができる
- ・顎関節症以外の顎関節疾患と鑑別できる
- ・顎関節症類似の臨床症状を呈する疾患と鑑別できる。

<略歴>

1997 年 鶴見大学歯学部卒業、慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科研修医
1999 年 慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科専修医、国立栃木病院歯科口腔外科医員
2001 年 清水市立病院口腔外科医員
2003 年 慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科助手
2006 年 日野市立病院歯科口腔外科主任医員
2012 年 川崎市立井田病院歯科口腔外科医長
2017 年～川崎市立井田病院歯科口腔外科部長
慶應義塾大学医学部非常勤講師（歯科・口腔外科学）

代表的所属学会等：

日本顎関節学会 認定歯科顎関節症専門医、指導医、理事

日本口腔顔面痛学会 専門医・指導医、常務理事

日本口腔外科学会 認定口腔外科専門医、代議員

Diplomate of American Board of Orofacial Pain（米国口腔顔面痛学会ボード認定専門医）

Asian Academy of Orofacial Pain and Temporomandibular Disorders, Councilor

医学博士（慶應義塾大学）



松香 芳三

（徳島大学大学院医歯薬学研究部
顎機能咬合再建学分野）

『口腔顔面部疾患に対するボツリヌス治療 ～文献的考察をメインに～』

<要旨>

今回の講演では、口腔顔面部疾患に対するボツリヌス治療に関して文献的考察を中心に解説し、我々が実施してきたボツリヌス毒素に関する基礎研究を紹介する。18 世紀末にヨーロッパでソーセージを介するボツリヌス中毒が流行することにより、ボツリヌス菌・毒素が発見されることになる。ボツリヌス毒素の主な効果メカニズムは、神経終末における、神経伝達物質の遊離抑制である。我々の研究では、ボツリヌス毒素の顔面部末梢皮内投与により、神経伝達・血行により三叉神経節細胞に移動し、三叉神経節細胞での神経伝達物質遊離を抑制し、三叉神経障害性疼痛を軽減することが観察されている。また、文献的考察では、ボツリヌス毒素はブラキシズム、筋筋膜痛、顎関節脱臼、片側顔面痙攣、口腔顔面ジストニア、顔面麻痺、慢性片頭痛、三叉神経痛、流涎症、フレイ症候群、美容などに有効であることが報告されている。今回の講演が先生方の日常診療の向上に結びつくことを期待している。

<講演内容>

- I ボツリヌス治療の歴史
- II ボツリヌス毒素の効果メカニズム
- III ボツリヌス治療に関する基礎研究
- IV 口腔顔面部疾患に対するボツリヌス治療
総説

<専門医カリキュラム>

- ・顎口腔系の機能を説明できる
- ・痛みの基本事項を説明できる
- ・各病態に対し治療・管理目標を設定できる
- ・薬物療法を行える

<略歴>

1988 年	岡山大学歯学部卒業
1992 年	岡山大学歯学部 助手
1996～1998 年	UCLA 歯学部口腔顔面痛科 レジデント
1997 年	岡山大学歯学部附属病院 講師
1999 年	UCLA 歯学部 研究員
2002 年	UCLA 歯学部 助教授
2005 年	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 助教授・准教授
2012 年～	徳島大学大学院医歯薬学研究部 教授

代表的所属学会

日本顎関節学会	認定歯科顎関節症専門医、指導医
日本補綴歯科学会	専門医、指導医
日本口腔顔面痛学会	認定医、専門医、指導医
日本口腔リハビリテーション学会	認定医、指導医



塚原 宏泰

（医療法人社団宏礼会 塚原デンタルクリニック）

『咀嚼筋痛障害に対する 開業医におけるボツリヌス治療の取り組み』

<要旨>

咀嚼筋痛障害は、咀嚼筋痛とそれによる機能障害を主徴候とするもので、主症状としては筋痛、運動時痛、顎運動障害があります。統計学的には顎関節症の約 30% 程度であり、その治療法は行動要因の是正や運動療法などの理学療法、薬物療法、アプライアンス療法などで対応しますが、治療に苦慮する患者も存在します。

ボツリヌス菌から抽出されたボツリヌストキシンは、神経伝達物質であるアセチルコリンを分泌阻害することで一過性の筋肉麻痺を生じさせます。以前から、眼科や神経内科の領域で、眼瞼・顔面痙攣や顎部ジストニアなどの治療に用いられ、ボツリヌス療法と呼ばれています。歯科領域では咀嚼筋痛障害や咬筋肥大などに用いられています。今回の発表はボツリヌス療法の概要を解説していくとともに、咀嚼筋痛障害の患者にボツリヌス療法を適応させた症例を供覧したいと思います。

<講演内容>

- I 咀嚼筋痛障害の病態
- II 咀嚼筋に対するボツリヌストキシンの薬理作用と効果
- III ボツリヌス治療への適応症例

<専門医カリキュラム>

- ・ボツリヌス治療への理解
- ・咀嚼筋に対するボツリヌストキシンの薬理作用と効果
- ・ボツリヌス治療への適応症例

<略歴>

- 1989 年 日本大学松戸歯学部卒業
- 1989 年 東京医科歯科大学歯学部第 2 口腔外科勤務
- 1998 年 東京都千代田区に塚原デンタルクリニック開院
- 2002 年 歯学博士
- 2004 年 医療法人社団宏礼会設立
- 2004 年 東京医科歯科大学歯学部附属病院 客員臨床教授
- 2012 年 日本大学松戸歯学部 兼任講師
- 2012 年 神奈川歯科大学 非常勤講師

代表的所属学会

- 日本顎関節学会 認定歯科顎関節症専門医、指導医、理事
- 日本口腔外科学会 専門医、指導医
- 顎顔面インプラント学会 指導医



小川 徹

（東北大学病院 総合歯科診療部）

『歯科臨床でみられる運動障害とボツリヌス療法の 基礎的メカニズム』

<要旨>

運動障害は、大きく運動過多（振戦、ジストニア、アテトーゼなど）と運動過小（パーキンソンニズムなど）に分類され、多くは脳基底核の異常に関連する。歯科臨床でも、口腔や顎顔面領域にこれらの運動障害が現れることがあり、顎関節症や他の歯科疾患と類似・併発する場合もある。そのため、歯科医師は運動障害の正しい知識を持ち、症例に応じて神経内科や脳神経外科などと連携したインターディシプリナリーな治療が必要となる。本講演では、全身の運動異常の分類や特徴を概説した上で、歯科領域で代表的なジストニアやジスキネジアに焦点を当てる。また、歯科医師としての対応法や診療時の注意点についても解説し、最後に治療法として有用なボツリヌス療法の基礎的メカニズムを紹介する。本講演により、先生方の運動障害への理解が深まり、そして適切なマネージメントに繋がれば幸いである。

<講演内容>

- I 運動の分類、制御
- II 運動障害の原因、分類、症状
- III 口腔領域の不随意運動
- IV ボツリヌス療法について
- V 歯科における対応と注意点

<専門医カリキュラム>

- ・顎口腔系の機能を説明できる
- ・顎口腔系の習癖を説明できる
- ・口腔外の診察を実施できる
- ・顎関節症類似の臨床症状を呈する疾患と鑑別できる
- ・各病態に対し治療・管理目標を設定できる

<略歴>

1999 年	東北大学歯学部卒業
2003 年	東北大学大学院歯学研究科 博士課程修了
2003 年	東北大学歯学部附属病院 医員
2003 年	同助教
2008～2010 年	ルーベンカソリック大学 客員教授
2011 年	東北大学病院咬合回復科 講師
2012～2013 年	シドニー大学 研究員
2014 年	東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野 准教授
2024 年	東北大学病院総合歯科診療部 教授

代表的所属学会

日本補綴歯科学会 専門医・指導医、代議員
日本口腔顔面痛学会 認定医、評議員
日本顎関節学会 認定医
日本睡眠学会 歯科専門医
日本睡眠歯科学会 認定医、評議員
日本顎口腔機能学会 常任理事
日本スポーツ歯科医学会 認定医
日本総合歯科学会、日本歯科医学教育学会、日本口腔インプラント学会、日本老年歯科医学会、
日本咀嚼学会、日本顎顔面補綴学会、日本デジタル歯科学会、IADR



吉田 和也

（独立行政法人 国立病院機構
京都医療センター 歯科口腔外科）

『顎口腔領域の不随意運動に対する ボツリヌス毒素の臨床応用』

<要旨>

顎口腔領域の不随意運動には顎口腔ジストニア(oromandibular dystonia)、口舌ジスキネジア、口蓋振戦、機能性不随意運動、片側咀嚼筋痙攣などがあります。顎口腔ジストニアや片側咀嚼筋痙攣の患者の大半は歯科あるいは口腔外科を受診し、顎関節症やブラキシズムと診断されることが多く、あるいは精神疾患と診断され、精神科に対診となることも少なくありません。これらの不随意運動の臨床的特徴、鑑別診断、病因について解説いたします。治療には内服治療、ボツリヌス治療、外科治療その他がありますが、最も効果的な治療法としてボツリヌス治療が行われています。今回の学術講演ではボツリヌス治療を中心に説明させていただきます。

<講演内容>

- I 顎口腔領域の不随意運動の診断
- II 顎口腔領域の不随意運動のボツリヌス治療
- III 口腔領域への適応拡大に向けて

<専門医カリキュラム>

- ・顎口腔系の習癖を説明できる
- ・口腔外の診察を実施できる
- ・顎関節症類似の臨床症状を呈する疾患と鑑別できる。
- ・心身医学・精神医学的な因子を有する患者への対応ができる

<略歴>

1988 年 大阪歯科大学卒業
1992 年 大阪歯科大学大学院修了 歯学博士学位取得
1992 年 ベルリン自由大学（ドイツ）に留学（1994 年 3 月まで）
1993 年 ベルリン自由大学歯学部助手
1994 年 京都大学医学部歯科口腔外科助手
1995 年 日本学術振興会特別研究員（PD）
2001 年 医学博士（京都大学）学位取得
2002 年 京都大学大学院医学研究科助教
2007 年 独立行政法人 京都医療センター 歯科口腔外科科長

代表的所属学会

日本ボツリヌス治療学会 理事
日本神経学会 ジストニア診療ガイドライン作成委員
日本睡眠学会 評議員、歯科専門医
日本口腔外科学会 専門医、指導医
日本顎関節学会 認定歯科顎関節症専門医、指導医
日本補綴歯科学会 専門医、指導医